

トラック輸送情報（平成14年 4月分）

平成14年 7月 3日
 国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課
 担当：金子、荒木 内線28315
 直通03-5253-8342
 ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

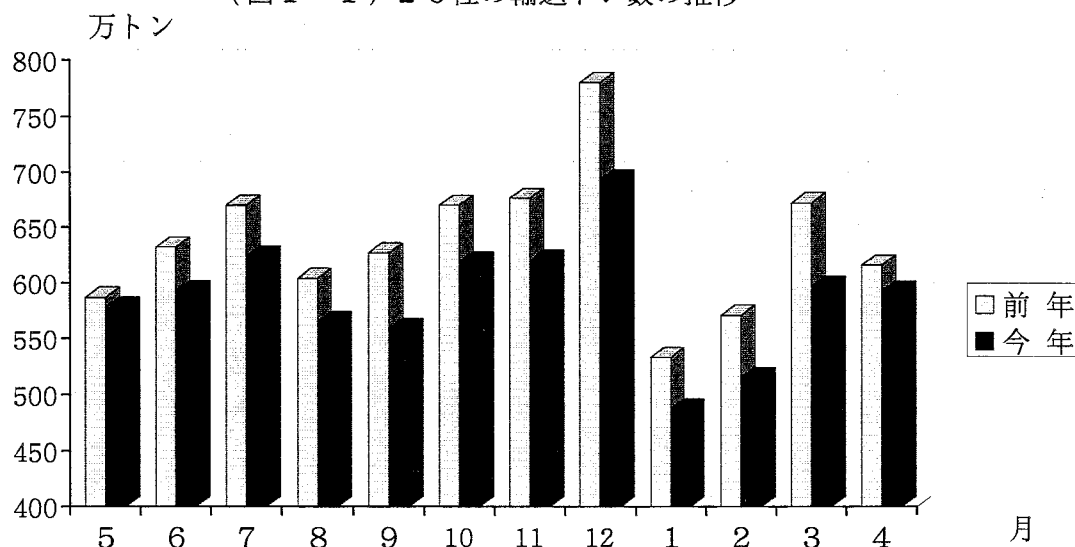
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の輸送状況

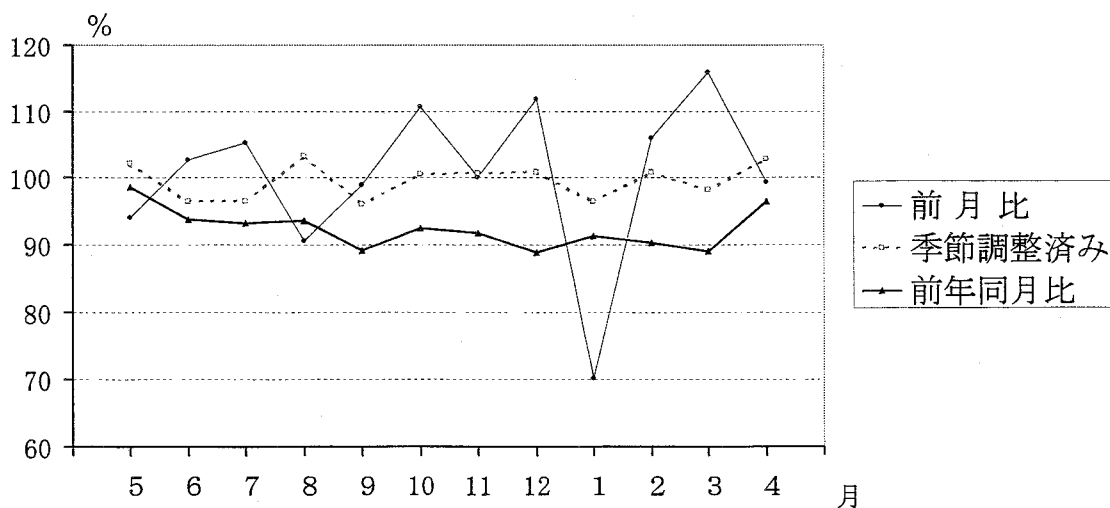
調査対象26社の本月の輸送量は5,933,686トンで、前年同月比 96.4%、前月比 99.3%（季節調整済み102.8%）の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は、23.6日、稼働1日当たりの輸送量は251,427トンで、前年同月比 97.6%、前月比 99.3%となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



（図1-2）前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比

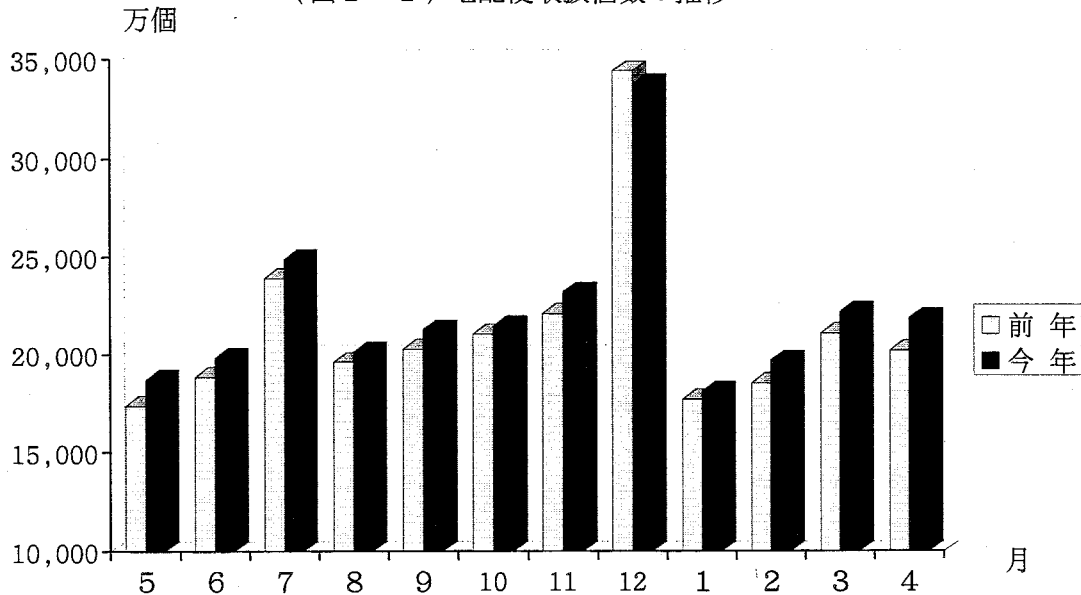


(2) 宅配便の輸送状況

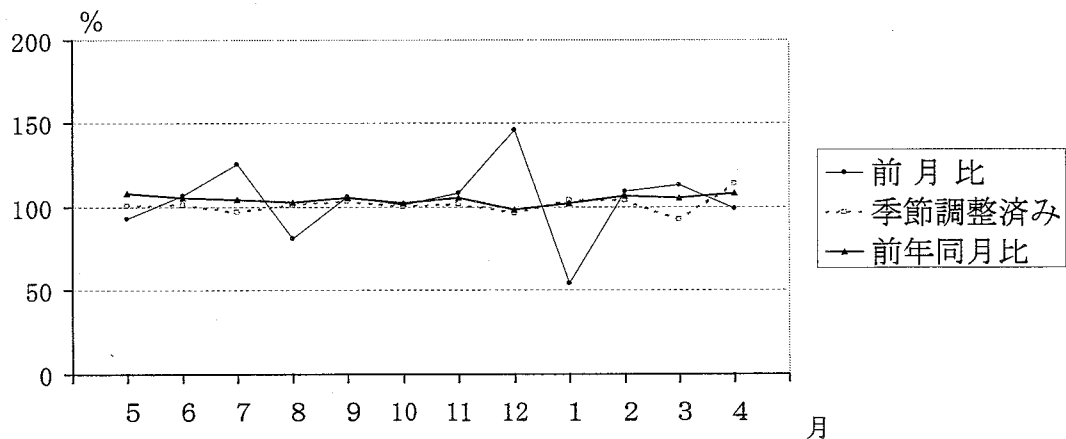
調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は218,720,933個であり、前年同月比108.1%、前月比 98.6%（季節調整済み113.1%）であった。（図2-1、図2-2参照）

（注）当月から宅配便輸送については調査対象が1社増え、20社となった。対前年同月比並びに対前月比は、20社ベースで比較している。

（図1-1）宅配便取扱個数の推移



（図2-2）前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比



(3) 本月の輸送動向

本月の輸送は、前月と比べ、平均稼働日数は変わらず、稼働1日当たりの輸送量は約0.2万ト減少したため、前月比 99.3%の実績となった。総輸送量についても先月と比べ約4万ト減少したため、前月比 99.3%の実績となった。宅配便についても約302万個減少したため、前月比 98.6%の実績となった。

前年同月と比べると、平均稼働日数は 0.3日減少し、稼働1日当たりの輸送量は約0.6万ト減少したため、前年同月比 97.6%の実績となった。総輸送量についても、約22万ト減少したため、前年同月比 96.4%の実績となった。宅配便について、約1645万個増加したため、前年同月比 108.1%の実績となった。

(4) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、前月と比べ、ほぼ全ての品目において減少傾向にあった。中でも、機械が中部において、工場・生産地からの貨物減を主な理由として減少している。

前年同月と比べると、ほぼ全ての品目において減少傾向にあった。中でも、機械が関東において、工場・生産地からの貨物減を主な理由として減少している。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因		
	著増	増	変らず	減					
前 月 に 比 べ て	農水産品		3	11	2	1	青果物	8	
								青果物	中部、近畿
	金属製品		2	14	3	1	家庭用金属製品	関東	5, 8
								近畿	4
	機械		2	14	3	2	機械部品	関東、近畿	4, 8
							家電、自動車部品、電子部品	中部	4
	化学工業品		4	15	2	1		関東	4
							化学薬品、合成樹脂	大阪	4
	繊維工業品		4	13	4	1	織物	関東、兵庫	4, 8
							織物	関東、中部、近畿	4, 8
	食料工業品	1	7	9	3	1	製造食品、加工食品、飲料	関東	4, 8
							飲料	東京	4, 8
日用品		7	8	5	1	一般貨物、雑貨品	関東、近畿	4, 8	
						身廻品、雑貨品	東京	4	
その他		4	11	4	1	宅配貨物、カタログ、百貨店商	関東	2, 4, 5, 8	
							全国	8	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	12	2	1	農産物	九州	4, 9
								青果物	東京
	金属製品		1	13	5	1		関東、近畿	4
							電気製品、建築用金属製品	中部、近畿、中国	4
	機械		4	10	5	2	家電、農機具、自動車部品	関東、近畿、中国	4
							精密機械、機械部品	関東	4
	化学工業品		3	12	6	1	化学薬品、合成樹脂	関東、近畿	4
							潤滑油、紙パルプ	関東	4
	繊維工業品		3	11	7	1	織物	関東、近畿	4
							織物	関東、中部	4
	食料工業品	1	8	5	6	1		関東、近畿、中国	4, 5
							飲料	関東	4, 7
日用品		7	7	5	2	一般貨物、雑貨品	関東、近畿、中国	5	
						雑貨品	関東、近畿	4, 9	
その他		4	9	6	1	宅配便	全国	5	
						カタログ、百貨店商品	関東	9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都府県(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都府県を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 863社／調査対象事業者数 1,109社）の輸送量は、前年同月比 96.5%、前月比 99.0%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	新潟	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	96.5%	95.2%	98.3%	92.4%	95.7%	94.9%	97.0%	94.7%	102.8%	99.5%	103.7%
前月比	99.0%	105.1%	94.2%	96.8%	94.6%	95.1%	98.2%	106.2%	101.4%	94.6%	107.2%

(2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、冬期終了により灯油などの「その他の石油製品」や排雪などの「廃棄物」の輸送が減少したが、雪解けが早かったことによる土木工事再開が早まったため、「砂利・砂・石材」等の輸送が増加し、対前月比105.1%の実績となった。また対前年同月比は95.2%の実績であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降は上昇傾向にある。</p>
東北	<p>本月の輸送は、冬期終了が早かったため集配車の稼働増加による輸送量の増加が見られたが、その反面で灯油などの「その他の石油製品」、年度末の公共工事の終了による「砂利・砂・石材」「その他の窯業品」等の輸送が減少したため、対前月比94.2%となった。また対前年同月比は98.3%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
新潟	<p>本月の輸送は、年度末の繁忙期が終了したことにより公共工事、引越輸送等に関する品目が、また、季節柄「野菜・果物」「化学肥料」等の輸送減があったため、対前月比96.8%の実績となり、対前年同月比も92.4%と減少している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、季節的な需要により「野菜・果物」等の輸送増があるものの、「その他の石油製品」「取り合わせ品」の輸送減があったため、対前月比94.6%の実績となった。また対前年同月比も95.7%と厳しい状況が続いている。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、年度替わりの月どあつて品目別の増減が多種にわたっており、特に文具等の「日用品」の減少が目立った。また、例年より温暖だったため、灯油等の「その他の石油製品」の輸送減もあった。このため対前月比95.1%の実績となった。対前年同月比についても94.9%と厳しい状況である。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にある。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、「鉄鋼」「機械」「日用品」を中心に、工事の増加等の一時的な需要増と景気の影響を受けた貨物の減少が入り交じったことにより、対前月比98.2%の実績であった。また対前年同月比は97.0%と依然として厳しい状況である。今後の輸送見通しは次月及び以降共に減少傾向にある。</p>
中国	<p>本月の輸送は、需要増に伴う「鉄鋼」「工業用非金属」「食料工業品」「日用雑貨」「紙・パルプ」等の輸送増があったため、対前月比106.2%の実績となったが、最近の経済状況を反映して対前年同月比94.7%と厳しい状態が続いている。今後の輸送見通しは次月及び以降共に減少傾向にある。</p>
四国	<p>本月の輸送は、公共工事等の減少及び引越シーズン終了による建設資材である「砂利・砂・石材」等や「取り合せ品」の輸送減が見られたが、季節的な需要により「野菜・果物」「食料工業品」の輸送増により対前月比101.4%の増加であった。また、対前年同月比も102.8%と増加している。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にある。</p>
九州	<p>本月の輸送は、「野菜」「果物」「食料工業品」の輸送増が見られたものの、年度末が過ぎた事もあり、公共工事に関係する「機械」「セメント」「その他の窯業品」等の品目を中心に輸送減が目立った。このため、対前月比は94.6%の実績となった。また、対前年同月比は99.5%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にある。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、モノレール敷設工事がほぼ終了したことに伴い、軌道桁等の「その他の窯業品」の輸送が減少し、また、引越シーズンの終了や野菜及び切り花等の本土出荷が減ったことから、「取り合わせ品」及び「その他の農産品」の輸送が減少した。しかし、家電などの「日用品」や飲料等の「食料工業品」の需要も増加したことから、対前月比107.2%、対前年同月比103.7%の実績となった。今後の輸送見通しは次月及び以降とも上昇傾向にある。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局	北	東	新	関	中	近	中	四	九	沖	全
		海	海	北	潟	東	部	畿	国	国	州	縄	国
		道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	計
1. 穀物	増	0	1	2	0	0	0	0	3	0	3	0	9
	減	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
2. 野菜・果物	増	1	0	1	2	0	1	0	2	10	0	0	17
	減	1	1	1	1	1	0	0	0	0	4	0	9
3. その他の農産品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4
4. 畜産品	増	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	3
5. 水産品	増	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
6. 木材	増	4	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	8
	減	2	2	2	1	1	0	1	2	8	0	0	19
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
9. 金属鉱	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	9	1	0	0	1	0	3	0	1	0	0	15
	減	5	3	1	0	0	0	3	1	2	0	0	15
11. 工業用非金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3
	減	4	1	2	0	0	0	1	0	4	0	0	12
12. 鉄鋼	増	0	3	1	0	0	2	1	0	1	0	0	8
	減	1	0	2	1	1	1	2	1	3	1	1	13
13. 非鉄金属	増	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	4
	減	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
14. 金属製品	増	0	0	2	0	0	1	2	0	1	0	0	6
	減	0	2	1	0	3	1	0	0	3	0	0	10
15. 機械	増	0	0	0	1	2	2	1	0	0	0	0	6
	減	0	1	0	0	0	2	3	1	5	0	0	12
16. セメント	増	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	1	1	1	0	1	0	3	1	6	0	0	14
17. その他の窯業品	増	2	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	6
	減	1	4	1	0	2	1	2	0	9	1	1	21

品目	運輸局	北海道	東北	新潟	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
	増	減	増	減	増	減	増	減	増	減	増	減
18. 揮発油	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
19. その他の石油製品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	11
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
21. 化学薬品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22. 化学肥料	増	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23. その他の化学工業品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
24. 紙・パルプ	増	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26. 食料工業品	増	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
27. 日用品	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
28. その他の製造工業品	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. その他のくずもの	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	減	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
32. 廃棄物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
33. 輸送用容器	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34. 取り合せ品	増	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	減	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
35. その他	増	2	1	1	0	0	0	0	0	1	0	5
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1